



二〇二〇年九月に発足した菅政権は、新型コロナウイルスに対する対応で、PCR検査によって感染を抑えこむという対策をとらずに、国民の命を危

新型コロナ 危機をのりこえて前進を

国賠同盟県本部 会長 舘田 篤 廣

険にさらしてきました。日本学術会議会員の選任人事に介入し、憲法23条「学問の自由はこれを保障する」という憲法違反をやり、半年間居直り続けています。また、国民監視と国民を統制するシステムをつくりあげる「デジタル関連法」を強行成立させるなど、非常に危険な内閣です。一方では、人権侵害を許さない声を広げ、「入管法改定案」を断念させる成果も勝ち取りました。四月に行われた3つの国政選挙（北海道、長野、広島）すべてで市民と野党の統一候



No. 564

編集発行人 田中幹夫
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
〒113-0034
東京都文京区湯島2-4-4
平和と労働センター全労連会館内
電話 03-5842-6461
FAX 03-5842-6462
振替 00110-6-97793
定価 50円

青森県版
2021年6月15日発行
第 348 号
〒030-0821
青森市勝田二丁目7-3
山脇ビル
TEL 017-721-9018
FAX 017-721-9019
青森県本部

補が勝利し、菅政権に打撃を与えました。今年には総選挙が行なわれますが、同盟が取り組んでいる「国家賠償法の制定」を求める請願の紹介議員は衆議院で七六名、参議院で四一名と二〇〇名近くまで前進しています。総選挙ではこの紹介議員を一人でも多くするために奮闘しましょう。
同盟県本部は五〇〇名の会員、国会請願署名は七〇〇〇筆を目標にして取り組んでいます。いま、コロナ禍での活動が続きますが、感染防止を徹底し、会員の結びつきを強め、何としても同盟の前進を目指して頑張っていく決意です。
会員の皆さまのご協力をお願い致します。
(二面に会員拡大の現状を記載)



つふやま

真っ赤な夕陽
落ちてゆくのに
まだ燃えている
『南部蟬しぐれ』

先へ出すぎりや
世間が叩く 遅れて歩けば
笑われる 夢が背を押す：
『峠越え』

福田こうへいが唄う応援歌
三山ひろしの『棚田桜』『雪子』
は、青春郷愁歌かな。

♪ 石こ流れて 木の葉こ
沈む…

世相を諷刺したかのような
『嘉瀬の奴踊り』

嘉瀬出身の土岐兼房は『憲兵に追われた綴方教師』、旧出精村出身の小笠原文次郎は『獄中メモ』の筆者。

二人共治安維持法犠牲者。
香港、ウィグル、ミャンマー、ベラルーシ。eーラスト、人種差別、ジェンダー…。
演歌から人権まで、つな
がっちゃた。
(信)

今期会員数は減少 (ここ数年でも初めての事態)

国賠同盟運動を支えて頂いている会員の皆さん、
会員増にご協力を！

(1) 今年度会員拡大の現状

支部名	2020.7月	2020.7月~2021.5月	現在	目標
東 青	231	7名増 12名減 (-5)	226	250
弘 前	78	2名増 5名減 (-3)	75	86
西 北	20	1名増 1名減 (0)	20	23
下 北	28	1名減 (-1)	27	35
上十三	29	2名増 1名減 (+1)	30	31
三 八	63	2名増 (+2)	65	80
合計	449名	14名増 20名減 (-6)	443	505

(2) ここ数年間の会員拡大数 (県全体)

2014年7月~2015年6月	25名増	
2015年7月~2016年6月	13名増	
2016年7月~2017年6月	16名増	
2017年7月~2018年6月	41名増	三八支部結成
2018年7月~2019年6月	23名増	
2019年7月~2020年6月	8名増	
2020年7月~2021年5月	6名減	

●県同盟は結成以来ほぼ着実に組織を広げてきました。多くの人たちの努力によって築き上げてきたこの積み重ね、今期は残念ながら現時点では前年度マイナスとなつていきます。

●要因はやはり「コロナ禍」です。毎年おこなつていく集会や碑前祭、大会、街宣などが中止や縮小とせざるを得なかった状況がありました。組織の拡大は様々な行事、運動と合わせて進めていくことが大きな力となります。

しかしこの状況下でも拡大はできます。多くの人々に同盟の役割、同盟運動の重要性を伝え「ふたたび戦争と暗黒政治を許さない運動をともに進めましょう」の声掛け行動を会員の皆さんに心から呼びかけます。



総会に代わる 二〇二一年理事会を開催

「支部総会決議」に代わり、
支部理事会決議を確認



東青支部は五月二十二日(土)午後一時より、青森県福祉プラザにおいて臨時理事会を開催しました。本来この日は、二〇二一年支部総会を開催する予定で会場を申し込んでいましたが、新型コロナウイルスによる市中感染が広がり、総会の開催は昨年引き続き困難と判断しました。

しかし年一回の総会開催と同様、議案書(総括・方針・決算・予算・役員選出)を作成し支部理事

会で、討議と確認を行う手順を踏むこととし、支部事務局会議

が中心となり議案を作成。五月十一日の理事会で内容検討と修正を行ない、五月二十二日の臨時理事会で承認されました。

支部役員は三役四名・理事は八名の再任(三名が退任)を確認、東青支部理事会

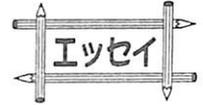
として同盟活動の任に当たることになりました。又、「ジェンダー・ギャップ指数と日本社会の課題(治安維持法と現代No.41)」を学習し秋までに必ず行なわれる総選挙。「市民と野党の共同」を掲げる野党の勝利に貢献す

ることの重要性を改めて実感しました。確認された決議は支部会員全員に届ける。会員拡大や請願署名に更に取り組むことを確認し、理事会を終りました。

東青支部事務局長

中野悦子





私が出会った子どもたち……③

「センセ、教育委員会に

一緒に行ってくれないか？」

中村 修 (元小学校教師)

「センセ！焼肉おこつてくれ！」
新任で赴任し、初めて出会った私に大胆不敵な態度で薄笑いを浮かべながら話す勇二は3年生。

「ああつ、いいよ。」真正面に受け止めた私の応答に勇二の方が少々面喰つたようだった。直後、「修センセ、勇二の言うことにまともに返したらいけないよ！」担任のお叱りが私の方に飛んできたのには驚い

たが、普通でない。勇二とのドラマの始まりだった。

勇二は、病弱な父、外国籍の母、父方の祖母との4人家族だった。母は、一人で外国料理の飲食店を営んでいた。勇二の交友域は、想像を超える広範囲であった。帰宅直後から学区外へ飛び出して、大人顔負けの社交を繰り広げ、夕食時には母の営む飲食店で食事を取り、食後は、夜更けまで再び交遊に浸っていたようだ。学区外の遊技場・飲食店が入居する量販店の何ヶ所かに「縄張り」を張っていて、勇二が通りかかると若者・大人までも含むさまざまな人種から声がかかる。



絵手紙 吉田祥子(東青支部)

学区外の某所でボヤ騒ぎがあり、当局から学校に連絡があつて、勇二がかかわっていたという出来事があつた。関係先などへ聴き取りに出向き、前述のような勇二の生活ぶりの全貌が初めて明らかとなつたのだ。

学校での勇二は、やんちゃ坊主そのもので、手はかかるが、他者に危害を加えるようなことをする子ではなかった。4年生になった雄二の担任が変わり、まだ新学期が始まっていない春休み中に学区外のスパーから連絡が入り、二人でいわゆる「払下げ」に出向いたことがある。初めての万引き事件であつた。病弱な父も片言の日本語しか話せない母もまともに対処ができなかったから私たちが身元引受人となる方法しかなかった。

この時から、担任と二人「異例の家庭訪問」を繰り返すこととなった。勤務終了後、母親の営む飲食店に出向き、食事を取りながら母親との対話を遅くまで繰り返した。勇二は私たちの「異例の家庭訪問」

をとて喜んでくれた。教師と忌憚なく片言の日本語で話す母の姿が安心感を誘つたのだろうか。法に触れるような問題行動が減つていったと感じたのは私達だけではなかったように思う。

5年生になった勇二と母が事情あつて、家を出て二人だけの生活をする事となった。担任と二人、学区外といわれる「新居」に新たな「家庭訪問」に出向いた。二人の新居は、ラブホテルの一室だった。母の顧客が紹介してくれたというのだが、一面ピンク色の壁と鏡張り、回転ベッドの上で遊びこける勇二を見て私たちは仰天してしまった。

6年生になった勇二から、母とともに関東方面へ引越すので転校手続きを一緒にしてくれと頼まれ、教育委員会などへ同行した。中学生になったころ、進学したと思われる中学校から「小学生時の様子などの照会状」が届いたことがある。関東まで出向きたい思いであつたが、もはや手も足も出なかった。